

## 平成28年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方

□※1:平成27年度の意見・課題への取り組み(年度末点検)をもとに、平成28年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、平成29年4月自己点検委員会で確認した。

□※2:～6月時点の現状・進捗状況を記述、第1回学校関係者評価委員会に報告

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○第一の基本方針である、TPC※1の育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取組が工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げている。 ※1:考える力Think、積極性Positive、対話力Communication	継続	校長	■TPCの育成と強化については、組織内に浸透させる段階から、教員個々の教育活動に具体的に反映させる段階に移行しつつある。 ■引き続き、学科運営計画や目標面接等で、具体的な活動計画とその後の進捗状況について確認する。	■各学科の事業計画と運営計画については作成済み。それらを教員個々の具体的な目標へと落とし込むための目標設定シートを現在作成中で、このシートをもとに6月中旬までに目標設定面接を実施する。 ■29年度の各学科の学科運営計画を取りまとめ、サイボウズ上に公開した。
	(2)退学防止	○退学防止については、教職員が一致協力した全校的な取り組みにより一定の水準は維持しているもの、平成28年度、27年度ともに目標達成に及んでいない。 ○努力してもなかなか成果が上がらない現状であることから、原因の分析が改めて求められる。 ○また、表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、引き続き、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫を進めてほしい。 □総評より: 退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思う。既に取組まれているが、オープンキャンパスにおいては退学者を限りなくゼロにすることを想定した上でのコミュニケーションの工夫が大事だと思う。	継続	校長	■28年度の退学率は退学者未提出者を含めると5.1%(39人)となる見込みで、27年度の5.9%(48人)は下回ったものの、3.5%以下の目標は達成できなかった。 ■退学者事由としては、指導努力だけでは防ぎきれないものがほとんどだが、防ぎ得る退学として、AO入試による入学者の入学後のミスマッチを原因とする退学に注目し、次年度において具体的な対策を講じる。	■引き続き「退学防止の事例記録」「退学届・学籍異動の記録」を活用して事例研究を進めるとともに、AO入試による29年度入学者への対策は学生委員会、30年度入学予定者への入学前指導対策は教務委員会の課題として、校務分掌に示した。
	(3)教員研修	○授業公開については、試行錯誤が繰り返されているが、授業を客観的に見てもらうのは当たり前という雰囲気とその機会づくりを念頭に、引き続き教員が参加しやすい、効果的な進め方を工夫すると共に、教員個々のインストラクションスキル向上に努めることを期待する。	継続	教務委員会	■28年度の医療秘書科の退学者のほとんどがAO入試による入学者で、しかも上半期の早い時期に集中していたため、医療秘書科のAO入試による29年度入学者の早期の面談実施を含む退学防止策を、学生委員会の「退学防止」担当業務の重点課題とする。 ■また、AO入試による平成30年度入学予定者に対しての、入学前の面接オリエンテーション実施や入学前の課題の工夫を、教務委員会の「入学前指導プログラム」担当業務の課題とすることにした。	■医療秘書科1年生のAO入学者について、入学直後の早い時期に担任による個人面談を実施するとともに、学生委員会「生活指導・退学防止」担当が4月以降の出席状況や学校生活への適応状況を定期的にチェックすることし、退学の兆候が少しでもあれば、できるだけ早く対策を講じられる態勢を整えた。 ■AO入試による平成30年度入学予定者に対する入学前指導プログラム案について、教務委員会から6月度の学科長会に提案することになった。
1 教育理念・目的・育人人材像	1. 理念・目的・育人人材像	○本校が目指す人材の育成充実に向けて、学科再編等の検討を引き続き進めてほしい。 ○また、各学科における三つのポリシー※2の再確認は、どのように行うのかを具体的に示したうえでしっかりと進めてほしい。 ※2:ディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針、学生が身に付けるべき資質・能力の明確化)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、教育課程編成、教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化)、アドミッション・ポリシー(入学者を受け入れるための条件)	継続	校長	■引き続き、校長室を中心に、関連するプロジェクトチームや各学科、募集広報協議会等と連携して、教育課程編成委員会の意見等も参考に、検討を進めていく。 ■三つのポリシーについては、5月中旬を期限として作成される各学科の学科運営計画において改めて確認のうえ、募集活動等にも反映させる。	■学科再編等の検討については、進行中。 ■29年度の各学科の学科運営計画を取りまとめ、サイボウズ上に公開した。
		2. 育人人材像と業界等の人材ニーズへの適合	○本校の育成する人材は、専門分野に関連する業界のニーズや定められた養成人材像に適合している。 ○職業実践教育を更に充実させるためにも、関連業界との高一層の連携の強化に期待したい。	新規	速記 コンピュータ科	■新学科の開設準備に当たり、学帯・速記業界との連携を継続・強化する。
			新規	医療秘書科	■医療機関の現役職員による特別授業・講話を授業や学科行事において開催し、情報収集、現状理解に努める。	■5月に、1年生全員を対象に「病院で働く」ことに関して、2年生医療事務コース生を対象に「医事課におけるレセプト業務」について特別授業を現役の医療機関従事者を講師に招いて実施した。 ■6月の病院実習開始以降、実習先訪問時に状況確認及び情報収集を予定。 ■7月に、1年生全員を対象に国際モダンホスピタルショーの見学を予定。
			新規	医療マネジメント科	■実習先の他、病院職員・業界職員である特別講演講師・兼任講師からの意見を情報収集する。	■兼任講師だけでなく、病院職員である特別講座講師1名、卒業生から情報収集している。
			新規	診療情報管理専攻科	■日本診療情報学会の参加や就職先・実習先の診療情報管理担当者の意見を収集し、学科運営に反映させる。	■情報収集は継続・実施中、6月まで得られた結果としてDPC請求の実務能力を高める上で、次年度カリキュラムに「DPC実務」の教科を導入予定。
			新規	医師事務技術専攻科	■実習先医療施設と連携し、実務に直結する専門技能の強化を図る。(実習医療施設の実習指導者の講師による授業を導入し、実習をより効果的にし、職業実践教育を更に充実させる。)	■6月より実習先医療施設と連携し専門技能の強化のための実習を実施中。
			新規	くすり調剤事務科	■日本チェーンドラッグストア協会の担当者、ドラッグストア企業や調剤薬局企業の採用担当者と毎年、情報交換をしている。 ■どのような人材、どのような教科などが要望されているか情報交換しながら、毎年教科項目などを打ち合わせをしている。	■～6月は、企業の採用担当者が忙しいので、毎年、秋に学生の採用のお礼や次年度の採用のお断り兼ねて、人材育成や授業科目などの情報交換の打ち合わせで訪問している。本年度もその時期での訪問スケジュールを計画している。
			新規	介護福祉科	■業界と連携し、最新の介護の動向や情報を知り、カリキュラム編成や、授業に反映していく。また、業界に協力をいただき特別講義等を通して授業の充実を図る。	■在宅・地域包括システムの理解を深めるため、7月4日に居宅介護事業所長による特別講義を予定している。後期にも2年生を対象に、地域包括支援事業所担当者による特別講義を予定している。
			新規	鍼灸医療科	■ディプロマポリシーにのっとり、臨床実習の強化に努める。 ■平成30年度に向けて臨床実習の外部実習も視野に入れて、充実を図る。	■平成30年度に向けて、業界団体「安産灸ネットワーク」と連携し年間4回の卒業生支援講座を実施している。また、平成30年度に向けて、教員の研修や学会を通して他校との情報交換を行っており反映させている。

大項目	中項目	〇28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
			新規	看護科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■近年看護師の早期離職・転職が社会問題となってきた。故に基礎教育の段階より職業人としての意識を高めていくことが必要と考える。</li> <li>■当校では、実習関連施設との連携のもと指導方法の共有をはかり、地に足をつけて働け「看護実践者の育成」を卒業時のあるべき姿に盛り込んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■1年次早期から臨床現場で看護面に接していく。各個人の体験をクラスで共有、深めるために先輩ナース、指導者、教員の指導の下合同カンファレンスを企画していく。</li> <li>■実習関連施設とは定期的な会議の場で、指導方法や体制に関して評価・検討していく。</li> </ul>
	3. 特色ある教育活動、社会人化教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校は、現場での実習を取り入れるなど、各学科において実践的な教育を行っている。</li> <li>○さらなる高度化へ向けて、専門分野ごとの教育課程検討の場の実施、活用を進めるとともに、進行中の介護福祉科の職業実践専門課程認定申請と医師事務技術専攻科の開設準備を遅滞なく進めてほしい。</li> </ul>	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>■介護福祉科の職業実践専門課程の認定、医師事務技術専攻科の開設は、予定どおり実行された。</li> <li>■平成30年度に向けては、「字幕制作・速記者養成科」(1年制専門課程)の開設準備を進めている。</li> <li>■また、医療事務系の3年目の専攻科教育の拡充を検討課題とし、校長室に調査部会を置いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成30年度「字幕制作・速記者養成科」(1年制専門課程)の開設準備は、設置準備部会を中心に、募集要項の作成、実施カリキュラムの調整等、予定どおり進行している。</li> <li>■医療事務系の3年目の専攻科教育の拡充については、校長室の調査部会で検討中。</li> </ul>
2 学校運営	1. 運営方針と重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運営方針は周知されており、常勤の教職員には浸透度の確認も工夫して進めているが、兼任講師の浸透に向けた働きかけの工夫が求められる。</li> </ul>	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4月の授業開始前の全教師会・科会で、校長から中期計画や運営方針、重点目標について兼任講師に伝え、併せて授業公開への参加を呼び掛けている。また、授業が始まってからも、随時、兼任講師との連携とコミュニケーションを図ることになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4月8日の全教師会・科会で、校長から中期計画や運営方針、重点目標について兼任講師に伝え、併せて授業公開への参加を呼び掛けた。また、授業開始後も、随時、兼任講師との連携とコミュニケーションを図っている。</li> </ul>
	3. 組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校は、校務運営会議のもと校務分掌組織図に役割等を明確にした学科長会議をはじめとした委員会等により学校運営を行っている。</li> <li>○引き続き、教職員が協力、連携して組織運営を行ってほしい。</li> </ul>	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>■校務分掌組織図は、前年度末に教職員に配付し、説明・確認している。また、円滑な運用のため、引き継ぎ等も前年度末までに行うようしている。</li> <li>■学校運営にあたっては、各学科・部署がベクトルを共有し、教職員が効果的に連携することを、29年度の重点目標の一つとして、教職員に示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校運営にあたって、各学科・部署がベクトルを共有し、教職員が効果的に連携するため、随時コミュニケーションの機会を設けている。</li> </ul>

大項目	中項目	〇28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
	6. 情報システム	○学事システムの入替に際しては、引き続き個人情報の漏えい防止にしっかりと取り組んでほしい。	継続	事務局長	■現状では、「個人情報・セキュリティに関する運用内規」を順守することが、個人情報の漏えい防止となるため、当面は新たなルール設定を行わずに運用する。	■4月に教職員の利用範囲を次のとおり示した。また、「個人情報・セキュリティに関する運用内規」も運用されているため、漏えい防止に必要な措置は講じられている。 ■学科長・副学科長 担当学科全学年・全クラスの閲覧・面談記録入力 ■クラス担任 担任クラスの閲覧・面談記録入力
3 教育活動	1. 目標の設定	○本校は、学校の教育目的、教育目標に基づいて各学科の教育目標を定め、具体的な教育活動をそれぞれのカリキュラム、学科運営計画に示すと共にTPCの育成と強化を基本方針として教育目標の実現を目指している。 ○PDCAサイクル※3に基づく職業実践教育の実現に向けて、引き続き各学科の教育活動における具体的な応用が期待される。 ※3:Plan計画、Do実行、Check点検・確認・評価、Act改善を繰り返す	継続	校長	■中期計画に基づいて、学科の改廃や新設、新規教育事業等の準備を予定しており進めている。 ■各学科においても、学科運営計画の年度末点検等を確実に実施しており、PDCAサイクルに基づく教育の改善を着実に実行している。	■各学科の28年度年度末点検結果を、4月上旬にサイボウズ上に公開した。また校務分掌上の委員会等、各運営組織の28年度活動報告書を作成し、5月度学科長会において報告内容を確認した。
			継続	速記 コンピュータ科	■業界からの情報収集及び業界団体との連携を推進し、新学科開設に向けた計画、実行に当たる。	■業界団体との連携により平成30年度開設に向けた新学科の計画・実行に当たっている。 ■PDCAサイクルに基づく教育活動、学科運営を行っている。
			継続	医療秘書科	■病院実習を中心にPDCAサイクルの継続による教育活動の充実化を図る。	■これまでの病院実習から得た情報をもとに、学生の学びに対する心がけやマナーを実習指導等に活かしている。 ■今後のカリキュラム編成や学校(もしくは学科内)行事の在り方を確認する。
			継続	医療 マネジメント科	■学生の教育において、病院実習を中心としたPDCAサイクルに基づく取り組みを実施する。	■病院実習については、これから開始されるので、具体的な取り組みについては今後進める予定である。
			継続	診療情報管理 専攻科	■外部情報をPDCAサイクルに基づき教育内容に導入し、教育活動に活かす。(医療・経営統計の資料作成や分析の重要度が増しているので関連教科担当教員に伝え対応力強化対策を継続する。)	■授業での医療・経営統計の資料作成や分析力強化対策を実施中。
			継続	医師事務技術 専攻科	■外部情報をPDCAサイクルに基づき教育内容に導入し、教育活動に活かす。(学会・就職先・実習先からの意見を情報収集し教育内容に反映する)	■就職先・実習先からの意見の収集は実施中。学会情報は9月と11月の参加で収集予定。
			継続	くすり 調剤事務科	■調剤事務の教科について、本年度から、医療秘書科、医療マネジメント科、くすり・調剤事務科で使用するテキスト、検定先を統一し、本年度2月に関係学科生徒に同時受験実施を目標として設定し、調剤事務の教育レベルの最低確保を目指す	■全学科で調剤事務のテキスト、検定先の統一を予定通りに実施した。各学科の1月検定受験を目指して授業を進めている
			継続	介護福祉科	■授業や定期試験では、国家試験問題に触れている。教員間では、授業進度表にチェックし共有している。国家試験対策の一つとして、任意で11月に福祉事務管理技能検定受験を予定している。 ■7月に実習先の訪問介護事業所長による介護実習Ⅳ(在宅介護)オリエンテーションの実施を予定している。 ■6月に2年生は第2回目、10月に第3回目の国家試験模擬試験(全国統一模試試験)を予定している。 ■個々の進捗を定期的に確認し、個々に合った指導をしていく。	■国家試験対策の一つとして、科目介護福祉事務を開講している。 ■6月27日に第2回介護福祉士国家試験模擬試験を予定している。 ■第1回の国家試験模擬試験結果をもとに、個別面談を6月に実施中。個々の取り組みの確認をし今後の学習計画を立てていく。 ■7月4日に、実習先の訪問介護事業所長による介護実習Ⅳ(在宅介護)オリエンテーションを予定している。
			継続	鍼灸医療科	■平成30年のカリキュラム編成に伴い、現状のカリキュラムの開講時期や内容について見直しを図る。 ■また、臨床実習の単位数増加に伴い、医療人としてのマナー強化と実践的かつ臨床力を身につけられる内容を検討する。	■平成30年度カリキュラム編成については既に着手しており、既存教科を含めヒアリングを行いながら再検討を行っている。 ■臨床実習に向けた事前実習の内容については、業界のニーズも視野に入れて編成している。
			継続	看護科	■国家試験出題傾向の変化(5肢2択問題、状況設定の長文化の増加)に対応すべく、低学年より読解力・総合的な判断力を身に付けられるよう講義内容の工夫を検討して行く。	■外部講師の先生方も、国家試験の傾向と動向について関心を示して下さる為、現状と課題の説明をしながら、講義内容のリストを伝えている。 ■常勤教員は、それぞれの授業の中で国家試験問題を意識的、意図的に活用している。
			継続	校長	■平成30年度に向けて、「字幕制作・速記者養成科」の開設準備、また制度変更に伴う「鍼灸医療科」のカリキュラム改定等を行うこととしている。	■7月3日を期限として、各学科に平成30年度生のカリキュラム案提出を依頼している。「字幕制作・速記者養成科」の開設準備については設置準備部会で、「鍼灸医療科」のカリキュラム改定は当該学科において、予定どおり準備を進めている。
			継続	速記 コンピュータ科	■職業実践教育的視点で専門職に直結したカリキュラムの構築を目指す。	■平成30年度開設予定学科の開設準備を進めている。
			継続	医療秘書科	■医療事務に関する学びをより深め、より高度な領域への興味・向学心を持つ学生の増加促進に向け、資格試験合格のみにこだわらず、専門領域の教員(医師等を含む)による授業を多く配置するよう努める。	■基礎力の定着とコミュニケーション能力の向上を意図したカリキュラム編成を検討する。 ■介護保険の基礎)を次年度必修とする。 ■未開講コースの見直しを検討予定。
			継続	医療 マネジメント科	■教育課程編成委員会での意見を、カリキュラム策定・授業運営・教員研修に反映させる。	■教育課程編成委員会での意見を、次年度のカリキュラム策定、今年度の授業運営と教員研修に反映させる予定である。
			継続	医療 マネジメント科	■教育課程編成委員会での意見を、カリキュラム策定・授業運営・教員研修に反映させる。	■教育課程編成委員会での意見を、次年度のカリキュラム策定、今年度の授業運営と教員研修に反映させる予定である。
			継続	診療情報管理 専攻科	■29年度では実習日誌の評価欄を活用し検証を行う。	■6月の時点では実習評価は1施設得られている。全ての実習評価が得られた時点で検証予定。
	継続	医師事務技術 専攻科	■教育課程編成委員会での意見を参考にし、授業や実習に反映させる。	■本年度の教育課程編成委員会の開催後に検討する。		
継続	くすり 調剤事務科	■平成29年4月の段階では、まだ調剤補助についての新しい資格内容の発表がなく、今後も情報入手に心がけ、資格取得に必要な内容を検証したうえで、職業実践専門課程の申請をするかどうか(学科名が変更になると、その後2年間は申請できなくなることも踏まえ)、検討する	■現時点で、まだ調剤補助資格の新しい情報がない			
	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った 教育課程の編成	○カリキュラム編成においては、職業実践教育の視点、PDCAサイクルによる編成プロセスを維持してほしい。	継続	校長	■平成30年度に向けて、「字幕制作・速記者養成科」の開設準備、また制度変更に伴う「鍼灸医療科」のカリキュラム改定等を行うこととしている。	■7月3日を期限として、各学科に平成30年度生のカリキュラム案提出を依頼している。「字幕制作・速記者養成科」の開設準備については設置準備部会で、「鍼灸医療科」のカリキュラム改定は当該学科において、予定どおり準備を進めている。

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■6月の1年生の介護実習1より、実習手引きを配付し、実習施設との連携と実習目的を理解し、目標に沿った実習ができるよう指導していく。</li> <li>■昨年度に続き、7月に訪問介護事業所所長による訪問介護について後期には、地域包括ケアシステムについての特別講義を予定している。</li> <li>■教育課程編成委員会での意見を参考にし、授業や実習の整備をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■1年生の介護実習1(第1段階介護実習)を6月12日～6月27日で施設と連携し実施する。</li> <li>■教育課程編成委員会の意見を参考にし、授業や実習の整備を継続している。</li> </ul>
			継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第25回はり師きゅう師国家試験の出題傾向は例年より大幅な変更がみられた。問題と学生の回答率との分析を行い、学科教員間での情報を共有している。一部、テキストの見直しを図った。</li> <li>■今後、婦人科分野の導入を検討している。それに先駆け卒業生を対象とした婦人科領域講習会を年4回開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国家試験問題について、学科教員会で情報の共有化、平成29年度の授業内容に反映させている。</li> <li>■婦人科領域講習会は第1回目を開催し、卒業生のモチベーションアップへと繋がっている。</li> </ul>
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■厚労省及び実習施設が打ち出している卒業時に求める能力を教員間で咀嚼し、教育方法を見直し、何を大事に教育を行っていくか、教員間で話し合う機会を持つて行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■昨年度末から新年度早期にかけて、学科教員会議において、看護科のめざすべき教育の方向性について話し合う時間を持った。それをもとに、看護科の「入学生受け入れ方針」を作成した。</li> </ul>
		○コマシラバスの検討に際しては、科目の特性による適応の是非に配慮することが望まれる。	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>■検定対策等、コマシラバスが有効と思われるケースについて、具体的に検討を進める。</li> <li>■また29年度から始まる「体系的な指導案の作成をテーマとした中堅教員向けの教員実践研修(東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団 主催)」に常勤教員を数名参加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■6月から9月にかけて開催される「体系的な指導案の作成をテーマとした中堅教員向けの教員実践研修(東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団 主催)」に、常勤教員を2名参加させることにしている。</li> </ul>
			新規	医療事務教科系研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>■1年生の診療報酬は医療秘書科、医療マネジメント科の複数の教員で担当しているため、授業内容の一定の質を保持する目的で、オリジナルテキストを作成している。</li> <li>■また、授業は基本的にはシラバスに即して展開しているが、各学科ごとの教員間で進捗状況や学習目標に到達しているか、頻繁に確認し教調整を行いながら進めている。実践に即応していると考えており、今後も継続していく予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■オリジナルテキストは定期的に見直しを行い、ブラッシュアップしていく。</li> <li>■各学科ごとの教員間で、授業の進捗状況確認のための打合せや情報交換を継続、実施中である。</li> </ul>

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
(2)教育課程への外部意見の反映		○本校では、職業実践専門課程の認定学科は勿論のこと他の学科においても教育課程編成委員会や本委員会での意見、提案をはじめ、外部意見を十分に反映してカリキュラムを編成している。 ○職業実践教育の効果については、卒業生や就職先等の評価を確認するための調査も望まれる。	新規	速記 コンピュータ科	■外部意見を参考にし、実習にかかわる部分は特に、カリキュラム編成上重点的に反映する。	■関連業界の意見を取り入れながら平成30年度開設予定学科のカリキュラム内容、実習方法等について検討中である。
			新規	医療秘書科	■教育課程編成委員会での意見を参考にし、授業や実習に反映させる。外部意見を反映してカリキュラムを編成する。	■各委員会からのご意見をはじめ、病院実習先、卒業生等からの情報を収集中。
			新規	医療 マナジメント科	■求人先・就職先・卒業生から、情報をリサーチする。	■卒業生懇談会において、卒業生から求人先や業界の情報をリサーチしている。
			新規	診療情報管理 専攻科	■教育課程編成委員会での意見を参考にし、授業や実習に反映させる。外部意見を反映してカリキュラムを編成する。	■本年度の教育課程編成委員会の開催後に検討する。
			新規	医師事務技 術専攻科	■実習先の意見を反映してカリキュラムを編成する。	■実習先の意見を収集中。
			新規	くすり 調剤事務科	■不定期ではあるが卒業生の就職先への訪問による企業現場での聞き取り、くすり科の同窓会に参加した卒業生の現況や要望の聞き取り、企業の採用担当者への卒業生の状況聞き取りを実施している。	■2月26日(土)第3回いちご会(学科同窓会)を実施して、8名の卒業生の参加があり、卒業生の現況や要望などをセアリングした。また、学校での会社説明会開催の打ち合わせの際にも、企業側の採用担当者にヒアリングをしている
			新規	介護福祉科	■教育課程編成委員会の意見を反映し、今後の介護の動向を踏まえたカリキュラム編成と授業の見直しをしていく。	■教育課程編成委員会の意見をもとに、講師を招き特別講義を実施している。 ■5月16日に卒業生懇談会を実施した。懇談会では、情報交換をし施設の現況を把握した。
			新規	鍼灸医療科	■卒業生との交流イベントを開催している。就職先については、長期的な就職に至っていない傾向が多く、就職先からの評価は難しいと感じている。様々な勉強会や交友会を通じ卒業生からの情報収集に努める。また、Gメールを利用して定期的にヒアリングを実施する。	■5月に交流イベントを実施したが卒業生の参加に至らなかったが卒業後研修会では3名の参加があり就職先や勤務状況についてヒアリングが行えた。今後、卒業生に向けてアンケートなどを行う必要性を感じている。
			新規	看護科	■6月にホームカミングdayを開催し、その際卒業生にアンケートを実施している。その結果を各就職施設に郵送し、卒業教育の体制を検討する機会に役立ててもらっている。	■6月25日にホームカミングdayを企画。現在準備中である。
			新規	CSC	■実習および内定先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認している。 ■今後卒業生との連絡方法の確認を兼ねて、今年度27年度生のGメールでの調査を実施したいと考えている。	■現在、実習先への訪問に際し、医療機関等の評価を確認している。 ■今年度中に27年度生のGメールでの調査を考えている。
(3)キャリア教育の実施		○本校におけるキャリア教育は、キャリアサポートプログラムにより行っている。 ○実施効果をさらに高め、また時代の変化に対応するように、教育課程編成委員会や本委員会の意見、提案などを参考に、引き続きプログラムの見直しを行っている。  □総評より： 教育の中身が充実し、評価されているという前提があつて他の業務が生きてくる。それをどう他の業務に生かしていかかが重要であり、そのしかりが今年新たに設けられた進路指導協議会であると考えられる。まずは、意識の部分から就職についてより積極的に関与し、学校全体として取り組んでいく意識改革が必要と思う。	継続	CSC	■キャリアサポートプログラムに関して、時代の変化に即し、協議会と連携し、教員とともに改編を行う。 ■また学生が取り組み易く、積極的に関われるという観点も重要であり、その点からも見直しを行う。	■現在、協議会にてキャリアサポートプログラムの内容について検討を進めている。 ■学生が取り組み易く、積極的に関われるという観点から見直しを行っている。
			継続	進路指導 協議会	■キャリアサポート関連の諸課題について、教員およびCSC職員で協力して改善策を探っていく。 ■課題としては、引き続きよりよい就職先の確保、内定辞退の削減、またより学生が積極的に関われるキャリアサポート関連の行事について等を考えている。	■現在一回目の協議会を開催し、キャリアサポート関連の諸課題について、検討中である。 ■一回目の検討課題として、よりよい就職先の確保、キャリアサポートプログラムの改善等に関して協議した。
			新規	進路指導 協議会	■教員および職員一丸となって、よりよい就職先の確保や内定辞退の削減等の諸問題について、まずはその重要性の認識から統一を図っていく。その上で、その対策を全員で考える。	■現在一回目の協議会を開催し、キャリアサポート関連の諸課題について、検討中である。 ■一回目の検討課題として、よりよい就職先の確保、キャリアサポートプログラムの改善等に関して協議した。
(4)授業評価		○アンケート結果をより有効に活用する意味からも、引き続き定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	■授業アンケートは、前期アンケートからの改訂実施を目標に教員以外が配付・回収を行い、集計の一部を翌週速報する。また集計結果へのコメントも記述する方向で作業中である。 ■学校生活に関する調査は、授業アンケートの改訂が終了次第、12月改訂実施に向けて作業する。	■5月点検委員会で29年度改訂による前期授業アンケート実施計画を作成した。6/26～30に実施する。集計結果へのコメント記述は、前期は委員会におけるトライアルで実施する。 ■学校生活に関する調査は、12月改訂実施に向けて7月から作業する。
3. 成績評価・単位認定等		○在校生のコンテストや研究発表における受賞は、本校教育の成果を表すものであることから、積極的にアピールすることを引き続き検討してほしい。	継続	速記 コンピュータ科	■業界団体主催イベントへの参加機会を確保する。	■10月実施の業界団体主催イベントに対して学生に参加を促す予定である。
			継続	医療秘書科	■2年生が卒業前に1年生に対して実習報告を発表する場を設け、2年生にはプレゼンテーション能力確認を、1年生には実習に関する心構えを準備する機会を設ける工夫をする。	■6月から病院実習が開始され、今後作成されるの報告書をパソコン演習の授業にて発表可能な体裁へと完成度を高める準備中である。
			継続	医療 マナジメント科	■4年生が、神奈川県病院協会主催の学術大会等において、発表する予定である。それ以外については、今後検討する。	■4年生が、神奈川県病院協会主催の学術大会等において、発表する予定である。
			継続	診療情報管理 専攻科	■実習報告会を継続する。	■後期に実習の報告会を実施予定。
			継続	医師事務技 術専攻科	■実習報告会を実施する。	■後期に実習の報告会を実施予定。
			継続	くすり 調剤事務科	■本校から、セルフメデュケーションアワードで特別賞1名、奨励賞2名が表彰された。特に特別賞の1名の生徒は、登録販売者の役割についての投稿内容をパワーポイントでドラッグショーの開催中のセミナー会場で多くの関係者の前で発表する機会があり、業界での学校の評価向上におおいに寄与することができた。 ■本年度も、くすり科1年生の積極的な投稿を指導していく。	■投稿申し込みが12月～1月であるので、いまのところ具体的な行動実績はない。10月以降に準備に入る予定である

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■12月にケーススタディ発表会の実施を予定している。国家試験の関係から、実施時期を前倒しとした。</li> <li>■介護実習Ⅲ終了から発表までの期間が短い。まとめ方と発表方法については検討中である。</li> <li>■実習後の実習報告会を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■12月のケーススタディ発表会は変更なく実施予定である。進行については、検討中である。</li> <li>■1年生の介護実習Ⅰ（第1段階介護実習）後の、実習報告会を7月3日に予定している。</li> </ul>
			継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■引き続き、「鍼灸ゼミⅠ」でのテーマに対する発表と「臨床実習Ⅱ」での臨床報告会を行う。臨床報告会では早期のインフォメーションを行い、より多くの参加者を募る予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■1年生「鍼灸ゼミⅠ」では学科教員が参加し6月中旬に実施予定である。3年生「臨床報告会」については後期に向けた準備を行っており、他学科への参観も呼びかける予定である。</li> </ul>
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「看護研究発表会」「看護観発表」を通じ三学年合同の学びの機会を持つ。その際、広報室の取材を受け外部へのアピールを行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■3年生は実習が開始となり、実践教育の場で自己のテーマを深め、後期に文章化して発表に持っていく。</li> </ul>
			新規	広報室	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各学科と連携し、上位資格の取得者等について本校のブログやラインに掲載している。</li> <li>■今後の課題としては、学科との連携を密にして情報の共有を図り、積極的にアピールしていくことが挙げられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■くすり・調剤事務科の外部表彰学生や学習奨励奨学金に関するブログの掲載など、ホームページのブログにおいて各学科と連携し積極的に進んでいる。</li> </ul>
	(2)資質向上への取組	○授業公開は、まだ定着に向けた段階であり、試行錯誤が繰り返されているが、教務委員会による新たな運営に期待したい。	継続	教務委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>■授業公開は、引き続き修正を加えながらより良い仕組みを構築し、定着化を目指す。昨年度実施後のアンケート等を参考に、より参加しやすく効果的な方法を探り、学校全体で取り組む行事として定着させ、インストラクションスキル（教授力）向上の機会とすることを目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■授業公開は自身の教授力向上のため有意義であるとの意識を高め、教職員全体で取り組むことにより、引き続き定着を図る。実施に際しては、昨年度の総括より実施方法や書式に修正を加え、より簡潔でなおかつ十分である参加しやすい仕組みを構築した。また要望や意見の多かった参観マナーについて、啓発のための「参観Q&amp;A」を作成した。</li> <li>■また、本年度は兼任講師に対して、参加方法の簡略化を図り、さらに個別での説明の機会を設ける等の仕掛けを行い、5名(6/5現在)の参加を得ることができた。昨年度より大幅に浸透してきており、今後は学校全体の行事としての更なる拡大を目指す。</li> </ul>

大項目	中項目	〇28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2	
3	教員の組織体制	○学生の日常指導における常勤教員と兼任講師間の連携と協力を引き続き進めてほしい。 □総評より: 学生のコミュニケーション能力の育成に向けた授業の中で先生方の様々な取り組みの説明を受け、とても真剣に取り組んでいるが、今後も情報交換を一層進めて、学校全体が良くなっていくように努力を続けてほしい。	継続	校長	■4月の授業開始前の全教員会・学科教員会で、常勤教員と兼任講師との学生指導に関する連携とコミュニケーションを呼び掛けた。授業が始まってからも、各学科において、兼任講師との連携とコミュニケーションを図っていくことにしている。	■4月8日の全教員会・学科教員会において、校長から常勤教員と兼任講師との学生指導に関する連携とコミュニケーションを、改めて呼び掛けた。授業開始後も随時、各学科で兼任講師との連携とコミュニケーションを図っている。	
			継続	運営 コンピュータ科	■兼任講師との日常的な連携と協力を進め、学生指導、クラス運営に生かしていく。	■兼任教員とは学生状況に関して情報交換を行い、学生対応に役立てている。	
			継続	医療秘書科	■学生からの「欠席等届」を介した担任と教科担当教員相互による状況確認の頻度を高め、各クラス、各学生の共有情報を増やすよう努める。	■「欠席等届」に加え、1年生全員と2年生の一部を対象に、毎週のふり返りシートの記入を求め、それらの情報をもとに担任・教科担当教員・学生委員会間で状況の把握と情報の共有を図っている。	
			継続	医療 マネジメント科	■常勤教員間の打合せ、兼任講師との情報交換・共有により、授業運営のみならず検定対策・学生指導に役立てる。	■常勤教員間の打合せ、兼任講師との情報交換・共有により、補講・授業変更を実施して、検定対策を実施しており、また、学生指導の参考にもしている。	
			継続	診療情報管理 専攻科	■兼任講師との打合せや情報交換等を実施し、授業・学生指導、認定対策等について成果を上げることを目指す。	■兼任講師との打合せや情報交換を継続・実施中。	
			継続	医師事務技術 専攻科	■兼任講師との打合せや情報交換等を実施し、専門教育・学生指導について成果を上げることを目指す。	■兼任講師との打合せや情報交換を継続・実施中。	
			継続	くすり 調剤事務科	■特に要望したのは、1年生の退学防止の協力、また前2年生の授業アンケート評価結果改善のための授業の進め方などの考慮を、兼任講師に依頼している。	■機会あるごとに、講師とのコミュニケーションに努めている	
			継続	介護福祉科	■学科会を通じ、授業進度表の記録継続を依頼し協力を得ている。 ■国家試験問題を兼任講師と共有している。 ■兼任講師との情報交換を密にし、連携を図っている。	■授業進度表の継続をしている。 ■兼任講師とは、授業の様子等の情報交換をし、指導に役立てている。 ■授業や定期試験時には、国家試験問題を織り込んだ授業展開をしている。	
			継続	鍼灸医療科	■引き続き、授業内の様子は適宜ヒアリングを行い兼任講師、常勤教員間で日々情報共有を行う。国家試験関連の教科については、特に授業の進捗状況を確認し学生のモチベーションアップにつなげる。	■兼任講師、常勤教員間では各学年担任を中心とした情報共有を図っている。特に1年生は入学後のミスマッチ等について、3年生は国家試験対策と卒業に向けての準備に配慮している	
			継続	看護科	■授業内の様子は日々兼任講師、常勤教員間で情報共有を行う。 ■実習に関しては、引き続き臨床指導者との情報共有を図っている。	■授業公開、授業アンケートの機会も活用しながら情報共有を図りつつ実践中。 ■6月実習指導者会、7月実習協議会開催予定。	
4	1. 就職率	○学生の多くは、学校求人を中心に就職活動を行っていることから、引き続き求人先の確保・開拓に努めてほしい。	継続	CSC	■学生の希望勤務地に合わせた医療事務系求人への確保に努めていきたい。そのために求職調査票や学生との面談を通じての希望勤務地の情報収集を行う。	■現在、学生の個別面談を通じて希望勤務地や希望職種の情報収集を行っている。	
			2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得の目標は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取組と成果を本校の強みとして顕えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	■引き続き、各学科の運営計画に年度目標を明示し、年度末に結果について検証する。資格・検定取得状況等のデータについては、サイボウズ上に公開し、教職員が閲覧できるようにしている。
	継続	運営 コンピュータ科			■学生個々の目標達成に向けた個別指導を含め、授業内外において検定対策を行う。	■授業内外において個別指導を含む検定対策を行っている。	
	継続	医療秘書科			■一部教科目における進捗別クラス編成授業を継続するとともに、1年次前期に基礎力の定着を意識した授業に努める。	■2年生の診療情報請求事務Ⅲにおいて進捗別クラス編成を継続実施中である。 ■1年生に対しては、6月時点での検定受験を促さず、基礎力の定着を心がけた。	
	継続	医療 マネジメント科			■各年度毎に学科目標を設定し、それについて年度当初に各教員に徹底した上で対策を実施してもらい、その結果を確認する。	■学科目標については、打合せや面談等を含め、様々な機会に各教員に告知することにより、徹底している。	
	継続	診療情報管理 専攻科			■学科目標を設定し、課題を明確にし、関連教員へ対策を依頼し、学生の取り組み状況・結果を確認する。	■関連教員との診療情報管理士認定試験の本年度の合格目標の確認と対策は依頼済み。学生の取り組み状況確認は継続中。	
	継続	医師事務技術 専攻科			■学科目標を設定し、課題を明確にし、関連教員へ対策を依頼し、学生の取り組み状況・結果を確認する。	■関連教員との教育目標の確認と対策は依頼済み。学生の資格取り組み状況確認は継続中。	
	継続	くすり 調剤事務科			■合格率全国平均44%の発表があり、本校では全国平均を上回ったが、来年度も本校としては、生徒100%合格を目標としている。	■8月以降から試験が順次、各都道府県で開始されるので、試験対策の準備に入りつつある。具体的な試験対策は、7月と8月の夏休み中に試験対策授業を実施する予定である	
	継続	介護福祉科			■国家試験の取り組み状況を、5月の面談の際に確認し個々に合った指導をしていく。 ■提出した課題のチェックをし、個別にコメントし指導をしていく。	■面談を6月に実施中。国家試験模擬試験の結果からみた個々の弱点を伝え、克服に向けた学習指導をしている。	
	継続	鍼灸医療科			■国家試験合格率100%を念頭に置き、学生の指導方法の改善を図る。昨年の反省を生かし、早期対応にあたる。各学生の習熟度に合わせた学習計画を作成し、実行できる環境をつくる。	■モチベーションアップに繋がる様、学生には細やかな声掛けを行っている。授業内では積極的に習熟度テストを実施している	
	継続	看護科			■国家試験合格率100%を目指して、低学年からの国家試験対策を見直しに行く。現行の指導方法を継続すべき点と改善点を教員間で検討して行く。	■現在取組中である。	
	新規	医療事務教科 系研究会			■資格検定取得については合格率向上を目指し、過去問題集や模擬試験の作成、補講授業の実施、また検定結果のデータ分析を行い、各学科ごとのカリキュラム変更の提案を行っている。今後も引き続き実施する予定である。	■各学科ごとの資格検定取得への取り組みに対して、授業展開を進めている。	
	3. 卒業生の社会的評価	○本校卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問・面談をはじめ、Gメール等による調査も進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。			継続	CSC	■求人訪問・病院訪問時に聞き取り確認をしている。今後、Gメールを活用した卒業生への調査を考えており、まずは27年度卒業生の動向を確認したい。
			5	学生支援	1. 就職等進路	○就職指導と活動支援の内容は、環境の変化への迅速な対応が必要であり、引き続き担当職員のスキルアッププログラムの改善等を進めてほしい。	継続

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
	2. 中途退学への対応	<p>○本校では、担任、学科長をはじめ、関係者が連携、協力した退学防止の取り組みにより一定の水準は維持しているものの、平成26年度、27年度ともに目標が達成できていない。</p> <p>○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、新たに開始した情報共有の仕組みを効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい</p> <p>□総評より： 退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思う。既に取組まれているが、オープンキャンパスにおいては退学者を限りなくゼロにすることを想定した上でのコミュニケーションの工夫が大事だと思う。</p>	継続	学科長会議	<p>■「学籍異動の記録」・「退学防止の事例記録」に加えて「欠席等届」を活用する等、各事例の情報を個人情報保護に抵触しない範囲で共有し退学率抑制に役立てる。</p>	<p>■「学籍異動の記録」・「退学防止の事例記録」に加えて「欠席等届」を活用する等により、退学率抑制に役立っている。</p>
			新規	広報室	<p>■入学前に学校と学科のことをよく知ってもらうことを目的の一つとして、オープンキャンパスに2回以上来校すると入学検定料が免除される制度をとっている。ほとんどの入学者が複数回来校し、本制度を利用している。</p> <p>■来校時は在校生、教員との懇談も取り入れ、学習、学生生活について理解を深めるようになっていく。今後は個別相談において、学費、奨学金等、入学相談室からの説明を強化していく。</p>	<p>■個別面談希望者や特待生指定校の生徒・保護者に対して、希望する内容について説明を行っている。また、本年度は保護者説明会を開催し、就職状況や学費、奨学金制度等の詳細について担当部署の担当者より説明を行う機会を設けている。</p>
			新規	速記 コンピュータ科	<p>■オープンキャンパス、入学選抜の機会において資質やレディネスに着目・確認し、必要に応じて課題を提供する。</p>	<p>■現時点においては機会を得ていない。</p>
			新規	医機秘書科	<p>■アドミッションポリシーを学校案内書はもとより、オープンキャンパスにおいても来校者に伝え、進学先選定の一助としていただく。</p>	<p>■学生募集要項にアドミッションポリシーを表記している。</p> <p>■保護者説明会、オープンキャンパス等において、アドミッションポリシーをはじめ、学びや卒業時点までの目標を説明している。</p>



大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
			新規	医療マネジメント科	■学科紹介・懇談・質疑応答の場においては、学科の全体像だけでなく、出来るだけ学科の実像を伝えて、その上で入学を検討・判断してもらおう。	■学科紹介・懇談・質疑応答の場においては、出来るだけ学科の実像を伝える形態で運営している。
			新規	診療情報管理専攻科	■進級規定に則って進級試験を実施する。面接試験では学科の教育目的を十分に説明し、併せて学生個々の進級目的の明確さも確認することで進級時のミスマッチを防ぐ。	■進級試験を後期に実施予定。
			新規	医師事務技術専攻科	■進級規定に則って進級試験を実施する。面接試験では学科の教育目的を十分に説明し、併せて学生個々の進級目的の明確さも確認することで進級時のミスマッチを防ぐ。	■進級試験を後期に実施予定。
			新規	くすり調剤事務科	■オープンキャンパス参加者には、2回以上の学科説明会参加を促すとともに、入学審査を厳格にした。その結果、2名の入学不合格者があった。 ■本年度も、オープンキャンパス参加者には、2回以上の参加を促していく。	■オープンキャンパス参加者に、再度、参加することを勧めている
			新規	介護福祉科	■本科生の退学は18期生以降ゼロのため、今後も継続していきよう学生と教員間のコミュニケーションをとっていく。 ■学生の変化に気づき、直ぐに対応できる体制を整えておき、状況の悪化防止に努める。	■入学前と入学後のミスマッチが生じないよう、入学後も学生の変化に注意し、引き続き退学ゼロを目指している。
			新規	鍼灸医療科	■職種内容に加えて、職域とニーズについても十分説明をしている。なりたいた鍼灸師像についてイメージを持てるよう体験授業の内容に幅を持たせる。	■入学希望者には、学びの特色を十分に説明し、イメージしやすい体験授業の内容を工夫している。将来に対して不安を感じている保護者についても十分時間をさいて対応している。
			新規	看護科	■入学後の学習内容、環境になじみず退学となってしまうケースもあるので、入学前から学習内容についてはイメージ化出来るような説明を心掛けていく。	■入学前学習を対象学生全員に取り組みでもらった。ほとんどの学生は全クール実施して評価に至ったが、3名はスケジュール通りに運ばなかった。入学後の指導に生かしていく
(1)経済的側面に対する支援体制		○緊急時における公的な制度と合わせた本校独自の支援などの経済的支援策について、奨学金制度の見直しの中で検討を進めてほしい。	継続	校長	■経済的な支援があれば防げたであろう退学のケースも毎年一定数見られる。給付型奨学金など、現在整備されつつある公的な制度と合わせた、在校生に対する新たな経済的支援策等も、具体的に検討したい。	■給付型奨学金など、現在整備されつつある公的な制度と合わせた、在校生に対する新たな経済的支援策等については検討中である。また、緊急時には、可能な範囲で学内の既存の奨学金制度等を、臨機応変に活用できるようにしている。
5. 保護者との連携		○保護者との連携については、先行事例を参考に連携の仕方を工夫することをはじめ、保護者会についても引き続き検討してほしい。 ○また、成績等の報告についても個人情報保護をはじめとした必要な検討を進めた上で、改めて実施に向けた検討が望まれる。	継続	校長	■本年度のオープンキャンパスにおいて、保護者説明会を3回予定している。また、4月の入学式終了後の会場で、保護者に対して、学校説明を行い、学生指導への協力を呼び掛けた。 ■入学後の保護者との連携は、個々の学生に関して指導上の問題が起きた場合については十分に行われているが、保護者会の開催や保護者への成績の報告等は、学科ごとの課題としている。	■6月以降のオープンキャンパスで、保護者説明会を3回予定している。また、4月の入学式終了後の会場で、保護者に対して、学校説明を行い、学生指導への協力を呼び掛けた。 ■入学後の保護者への成績の報告等は、学科長会等において検討中である。また、保護者会の開催については学科ごとの課題としており、一部の学科で開催が計画されている。
			継続	事務局長	■保護者会とは異なるが、29年4月の入学式において、保護者・ご家族の方へ学校の取り組みと家庭での協力をお伝えした。 ■成績等の報告については、送付自体に問題は無いと思われるので、送付に向けての機関決定、周知等のステップを踏めば、実施可能な状況である。 ■送付を行くか否かの判断を10月までに行い、実施する場合は次年度に予算化し、次年度より送付を行う。	■入学式における説明について、次年度も実施するか否か検討する。実施する場合は、説明内容の見直しを3月までに行う。 ■成績等の保護者への報告を実施するか否かの判断を10月までに行い、実施する場合は次年度に予算化し、送付する。
			継続	速記コンピュータ科	■学生の状況に即して保護者との連携を図り、臨機応変に保護者面談の実施を検討する。	■保護者との連携が必要と思われる事態は発生していない。
			継続	医療秘書科	■問題がある学生については速やかに保護者に連絡し対処する等の連携を行う。また、必要に応じて保護者を含めた面談も実施する。	■現在のところ保護者へ協力依頼を必要とする状況には至っていない。
			継続	医療マネジメント科	■連携が必要な学生については、速やかに保護者に連絡して対処する。また、必要に応じて保護者との面談を実施する。さらに、それらの実施にあたっては、個人情報保護を遵守する。	■連携が必要な学生については、教員間で協議した上で、速やかに保護者に連絡して対処している。
			継続	診療情報管理専攻科	■問題がある学生については速やかに保護者に連絡し対処する等の連携を行う。また、必要に応じて保護者を含めた面談も実施する。	■問題がある学生については保護者と連携し対処している。
			継続	医師事務技術専攻科	■問題がある学生については速やかに保護者に連絡し対処する等の連携を行う。また、必要に応じて保護者を含めた面談も実施する。	■現時点までは保護者との連携が必要な特別な問題が生じていない。
			継続	くすり調剤事務科	■遅刻、欠席が目立った生徒には、まず生徒にすぐ連絡して改善を促す。改善がみられない場合は保護者への連絡することで、1年生退学者1名にとどまった。今後も、学科としてはこの方式を継続していく。	■2年生で続けて長く欠席している学生1名について、保護者へ連絡し、改善がみられた。
			継続	介護福祉科	■6月に1、2年生合同の保護者会を予定している。1年生は6月2週目より、初めての介護実習1を携えていること、国家試験受験に向けての保護者との協力と連携を早期に図るため、開催時期を昨年度より早めた。 ■保護者への連絡等は電話連絡や、必要に応じて三者面談を実施している。	■6月11日に1、2年生合同の保護者会と、希望者に個別面談を定している。 ■保護者への連絡や三者面談を実施するようなケースは現在ははない。
			継続	鍼灸医療科	■新入生オリエンテーションでは、保護者の参加を促し、学園生活と国家試験までの流れを説明し、理解と協力を得ている。 ■出欠管理と成績は保護者や企業へ送付しており、学生の状況について連携を出している。引き続き連携を図る。	■新入生オリエンテーションでは保護者参加率80%であった。3年間の学生生活と国試までの流れについて十分な説明を行った。 ■また、学生の出欠管理は毎月毎に企業へ送付している。
			継続	看護科	■出席状況、成績は保護者へ送付している。 ■休学から退学に移行するケースが昨年度あった。休学中の保護者・本人との連絡調整における工夫をしてこまめに行っていく。	■担任を中心に、休学中も定期的に連絡を入れていく。 ■また、カリキュラムの都合上聴講すべき科目は受講できるようにしつつ、時間割変更などこまめに連絡している。
6. 卒業生・社会 人		○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。	継続	校長	■Gメールなどを活用し、進路指導協議会とCSCを中心に、教務委員会(卒業生支援・卒業後研修担当)、校友会事務局とも連携し、具体化を図る。	■進路指導協議会とCSCを中心に、教務委員会(卒業生支援・卒業後研修担当)、校友会事務局、各学科が連携し、具体化を図ることとしている。

大項目	中項目	○28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
			継続	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応するために既卒求人へ積極的に関わることで、卒業生への就(転)職のフォロー体制を充実させていきたい。また学習面での卒業生向け支援講座の実施にも積極的に取り組んでいきたい。	■現在、既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。また学習面での卒業生向け支援講座の実施にも取り組んでいく。
			新規	教務委員会	■卒業後のキャリアアップを支援するため、卒業生支援講座を年度内2回開催する。校友会と連携して、卒業生のニーズに合致した形での実施方法や内容を検討し、より参加しやすい仕組みの構築を目指す。	■本年度より校友会と連携して実施する。第1回は、9月下旬に介護福祉科卒業生を対象に、当時の担当教員を招聘し同意会を兼ねた形での実施を計画している。第2回は、2月に医事系学科卒業生を対象に、定例化している診療報酬点数の改定に合わせた説明会を予定している。なお、本年度より実施に関する費用は校友会が負担する。
			新規	校友会事務局	■卒業生支援講座について、校友会報において前年度の実施報告と本年度の実施案内の記事を掲載し協力している。また費用面では講師料等の補助を校友会費より行っている。今後も講座の充実した実施を支援するため、卒業生が求めている講座の企画を提案していく。	■平成28年度の実施報告を校友会報第48号に掲載する予定で進行している。また本年度の実施計画については、既に決定し、担当講師に依頼を行っている。本年度は参加者数を増やすことも目的としており、ハガキによる開催案内を送付する計画をしている。
6 教育環境	1. 施設・設備等	○学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーの目標などの検討が引き続きの課題である。	継続	事務局長	■平成30年以降も、インフラ整備の必要性と予算の優先順位を勘案し、整備を検討したい。	■インフラ整備の必要性と予算の優先順位を勘案し、12月末までに整備を実施するか否かの検討を行う。

大項目	中項目	〇28年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取組・改善の進め方 ※1	■現状・進捗状況 ※2
3. 防災・安全管理		○授業中の事故等に関する共通のマニュアルなどの整備が求められる。を進めてほしい。	継続	学科長会議	■学校安全管理マニュアル等を参考に、シンプルな形式で作成する作業を学務課と協力して進める。	■今後、学校安全管理マニュアル等を参考に、シンプルな形式で作成する作業を学務課と協力して進める予定である。
		○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどの予防接種についての情報提供を引き続き行うことが必要である。	継続	学務課長	■平成29年度学生生活ガイドにおいて、主に防犯の側面から注意事項を記載したページを追加した。 ■授業中の事故等に対応するマニュアルに関しては、文部科学省・東京都教育委員会等が公表している学校の安全対策・危機管理等の指針等を参考に、平成29年度中に学校危機管理マニュアル案を作成し、学科長会議及び校務運営会議に審議案を提出する。	■学校危機管理マニュアルの原案を現在作成中である。8月中に災害対策本部会議メンバーによる確認、9月以降の学科長会議・校務運営会議で審査・承認を経て、常任理事会に提出する予定である。
		○課題としている災害発生時の学内待機、近隣の被災者受け入れなどについては、引き続き近隣との連携をできることから慎重に整備を進めてほしい。	継続	事務局長	■学生の安全確保を第一とするため、学内待機の体制を平成29年度中に作成する。その上で、被災者の受け入れ等についてのルール・体制の検討を行う。	■平成29年度中に学生の学内待機の体制を作成する。その後、外部被災者の受け入れについて検討を行う。
7. 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	□総評より: ○教育の中心が充実し、評価されているという前提があつて他の業務が生きてくる。それをどう他の業務に生かしていかけるかが重要であり、そのしめがけ今年新たに設けられた募集広報協議会であると考えられる。まずは、意識の部分から広報についてより積極的に関与し、学校全体として取り組んでいく意識改革が必要と思う。 ○新たに活動を開始する募集広報協議会については、年間計画を策定するなど、具体的な取り組みを明確にした活動が望まれる。	新規	募集広報協議会	■協議会メンバーが中心となり、学校の魅力の再言語化や高校訪問、入学案内書の制作、オープンキャンパスの運営改善等について協議を行い、募集活動に対して教職員が一体となって関わる体制づくりができてきた。 ■今後は、学校コンセプトを学内に浸透させ続けていくこと、また年間活動計画の策定を行うことが課題となっている。	■本年度は4月に第1回の募集広報協議会を開催し、ホームページ作成について協議を行った。今後は募集計画、高校訪問、オープンキャンパス等について協議を行う予定である。 ■コンセプトの浸透については代理店との打ち合わせを行い、今後進捗していく。
9. 法令などの遵守	1. 関係法令、設置基準の遵守	○コンプライアンス(法令遵守)に関する専門の相談受付窓口の設置について検討が望まれる。	新規	校長	■学園の「公益通報者保護法に基づく内部通報規程」により、学園外部に相談受付窓口が設けられており、専門学校の教職員及び教職員であった者も相談することができるようになっている。	■学園の「公益通報者保護法に基づく内部通報規程」により、学園外部に相談受付窓口が設けられている。専門学校に在職している教職員だけでなく、教職員であった者も相談できるようになっている。
	2. 個人情報	○学生には、特にSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)について、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■平成29年4月のオリエンテーションにおいても、SNSや個人情報保護についての注意喚起を実施した。 ■新しいタイプのトラブルについては情報収集を継続的にを行い、必要に応じて学生に周知する。	■引き続き個人情報保護に努めるとともに、学生がSNS関連のトラブルを起こしたり、巻き込まれたりしないよう、継続的に情報収集を行う。
10. 社会貢献・地域貢献	1. 社会貢献・地域貢献	○地域交流や生涯学習においては、参加者や受講者に魅力ある講座の開発や効果的な広報手段の検討、また、社会問題への取組においては、引き続き意識的な取り組みの推進が期待される	継続	校長	■夏の豊島区オープンスクールには、引き続き参加することとしている。 ■また、卒業生支援講座や卒業研修については、教務委員会(卒業生支援・卒業研修担当)と校友会事務局が連携し、卒業生のニーズや希望も汲みあげたうえで講座の実施を図りたい。	■夏の豊島区オープンスクールに参加予定である。 ■卒業生支援講座や卒業研修については、教務委員会(卒業生支援・卒業研修担当)と校友会事務局が連携し、卒業生のニーズや希望も汲みあげたうえで講座の実施を図ることとしており、9月末に卒業生支援講座の開催が予定されている。
	2. ボランティア活動	○学業が忙しい中で、ボランティア活動の奨励、支援には難しさはあるが、人材育成の観点からも仕掛けを工夫して、引き続き進めてほしい。	継続	学生委員会	■平成29年度は、速記分野と鍼灸分野の講座を実施することとなった。 ■昨年度に学生委員会用のGメールアカウントを取得した。新年度のGメールが利用可能になり次第、個人情報の取り扱いを含めた、学生生活に関する注意事項を1か月に1回程度配信予定。	■5月に全学生および全教職員(一部を除く)に一斉配信できるメールアドレスをGメール管理者に設定してもらった。6月の委員会から、毎月の委員会で一斉配信の内容を検討し、配信予定。内容は個人情報の取り扱いを含めた、学生生活に関する注意事項やボランティア募集等を予定している。